

ビューティフル京都ぞうきんプロジェクト1 ー京都市の小学生を対象とした清掃活動プログラムー

井上えり子¹⁾・松本 歩子²⁾

Beautiful Kyoto Dustcloth Project 1 : The Cleaning Activity Program for Kyoto City Schoolchildren

Eriko INOUE and Ayuko MATUMOTO

抄 録：京都市まちの美化推進事業団の委託事業として2009年度に実施した小学生を対象とした清掃活動改善プロジェクトについて、その概要と実施状況を報告した。教材（ビューティフル京都ぞうきんとDVD）および実践プログラムを作成し、京都市環境局・京都市教育委員会の研修組織（便きょう会・家庭科研究会）・附属桃山小学校の3者と連携して市内12校に在籍する約4000名の児童を対象として実施した。

キーワード：清掃活動，家庭科，雑巾，環境教育，京都市

I. はじめに

本研究は2004年から学内で取り組んできた教育環境改善プロジェクトの継続研究¹⁾であり、2007年度からの取り組み「おたまじゃくしぞうきんプロジェクト」²⁾（おたまじゃくし型雑巾の製作と活用プログラム）を発展させたものである。2009年度には、京都市まちの美化推進事業団の委託事業として、京都市環境局および京都市教育委員会の研修組織（京都市掃除に学ぶ便きょう会（以下便きょう会）・京都市家庭科研究会）と連携し、市内12校に在籍する約4000名の児童を対象としたプログラム³⁾を作成実施している。

大学学内の清掃ボランティアという小さなプロジェクトは、この6年間で附属学校から地域の小学校と地道に活動の場を広げ、数千名規模での活動となった。筆者らは、学校の清掃活動は学校施設の整備美化に留まらず、家事労働や環境問題に関する知識や技能の獲得、公共性や社会性の育成などの教育的効果をもたらすと考えている。しかし、現実には清掃活動に力を注ぐ余裕がない学校も少なくない。そこで、一人でも多くの教育関係者が学校清掃活動の教育的効果に気づき、改善に向けた実践に取り組むよう支援することを目的として活動をすすめてきた。

すでに、京都市教育委員会では便きょう会が中心となって学校トイレの清掃活動に取り組み、保護者や地域住民も参加する学校清掃活動を展開している。清掃活動に対する意識も高く、学

1) 京都教育大学家政科 2) 奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程社会生活環境学専攻

校清掃活動に重点をおいている学校もある。今回の協力校の多くは積極的に清掃活動に取り組んでいる学校である。まずは、こうした意識の高い学校でプログラムを試行する。本稿ではプログラムの概要と 2009 年 12 月までの実施状況について報告する。

Ⅱ. 教材（BKZ と DVD）およびプログラムの開発

2.1 BKZ の開発

筆者らは 2007 年に環境を意識した雑巾としておたまじゃくしぞうきん（以下、OZ と略記）を開発し、附属桃山小学校で OZ を使用した実践を重ねてきた。OZ 使用アンケートの調査の結果から、OZ の使用により清掃活動への意欲が高まるなど一定の効果が確認され、とくに、清掃活動に熱心に取り組む 1～3 年生までの児童に効果的であった。また、4 年生以降の児童についても OZ を活用した授業プログラムを実践することにより清掃活動への意欲が高まることも確認された。

しかし、高学年を中心に OZ の使用頻度が低いということが課題として残された。その主な原因は OZ のデザインが子どもに愛着を感じさせるものであったため大事にし、結果的に雑巾としての使用頻度が低くなったことである⁴⁾。これに対処するため、雑巾として使用しやすいデザインに改良することとした。加えて、活用プログラムの作成や雑巾の補充の仕組みについても検討した。

新しい雑巾のデザインは、OZ の基本のデザインコンセプトは残しつつ形は通常の雑巾に近づけた。OZ の特徴である黒色は継続し、児童から支持された紐と手を入れることができる点および目玉の付いたデザイン、という 3 点も継続することとした。これらの点に加えて、京都市まちの美化推進事業団の委託事業であることを示すため、名称とイメージキャラクターを紐



図 1

と布に印刷し、2009 年度は図 1 に示したビューティフル京都ぞうきん（略称 BK ぞうきん、以下、BKZ と略記）を作製した。

BKZ は、縫製をした完成版（8000 枚）とキット版（縫製をしていない裁断した布と紐をセットにしたもの、2000 枚）の計 1 万枚を作製した。完成版は小学校低中学年に配布し、家庭科を履修する高学年ではキット版を使用して自分で製作した BKZ を使用して清掃活動を行うこととした。

BKZ への理解を深めるためパンフレット「BK ぞうきんを使おう」（図 2・図 3）を作成した。ここでは雑巾の洗い方、絞り方、干し方と使い方のルール（使う場所と使い方）を示し、京都市まちの美化推進事業団の説明を掲載した。



図 2



図 3

2.2 清掃活動 DVD の開発

小学校における清掃活動の観察から、合理性を欠く方法であっても教員自身が経験した方法を児童に指導している場合が少なくないことが判明した。このため、筆者らは、道具の使い方や掃除の手順の標準的方法を示した視聴覚教材が必要であると考えた。

ここで問題となるのは標準の設定である。学校の清掃方法は教員自身の経験が強く反映するため、多様性が大きく、標準を定めることが容易ではないのである。例えば、教室の机や椅子の移動方法にしても、前方に移動する方法や後方に移動する方法、両方に移動する方法、移動しない方法など多様である。床の掃除も掃き掃除のみの場合もあれば、拭き掃除、モップ、ワックスかけなど様々な方法が行われている。黒板も乾拭きのみの場合と水拭きをする場合もある。

従って、方法を詳細に示すのではなく、掃除の基本である「埃とゴミの除去」、「道具の使い方と手入れ」、「家具やモノの整頓」、「ゴミの始末（分別）」に関する基本事項を示した DVD 教材を作成することとした。ここでの基本的事項とは、①窓を開ける、②合理的な掃除の手順（上方から下方に、奥から手前に）、③隅々まで掃除する、④箒の使い方と手入れ、⑤雑巾の洗い方・絞り方・干し方、⑥机上のモノの片付け、⑦机を揃えて並べる、⑧ゴミの分別（京都市の分別方法）である。

そして、①②では、空気中に舞う埃に対応するため換気や掃除の手順が重要であること、③では埃やゴミは隅々に溜まり易いこと、④⑤では道具の使い方と手入れが掃除の効率に影響を与えること、⑥⑦は美しく仕上げるためには整頓が必要なこと、⑧環境のために分別が必要であることを理解させることを目指した。

2.3 「教室掃除間違い探し」(7分)

DVD 教材は、低学年の児童にも理解できるように、正しい掃除と間違い掃除の 2 種類を示し、児童自身が間違いに気づくようにした。登場人物は京都市まちの美化推進事業団のマスコットキャラクターであるビッカとビッケに扮した学生（図 4）と BKZ のデザインを模した全身が黒い黒子衣装の学生（図 5）である。間違った掃除をしていた黒子に、ビッカとビッケが正しい掃除を教えて、最後に皆で掃除をするというストーリーにした（図 6）。



図 4



図 5



図 6

DVD を補足するため、プリント教材（図 7・図 8）を作成した。これは先述の基本事項（換気、手順、整頓、掃除用具の使い方と手入れ、ゴミの分別）と BKZ の特徴を確認する内容とした。

なお、DVD は本学のホームページ（「授業のたね」）から視聴できる。

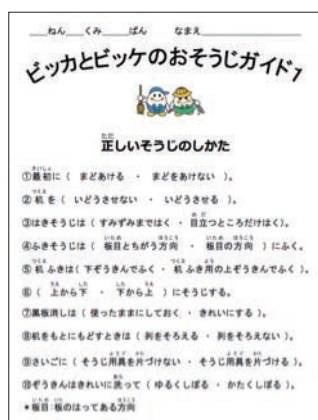


図 7



図 8

2.4 「ビューティフル京都一でできることから始めよう」(5分)

「教室掃除間違い探し」は主に低学年を対象とした内容であるが、高学年の児童を対象とした京都市のまち美化活動に関する視聴覚教材も併せて作成した。主な内容は、京都市内各地の清掃ボランティア活動の紹介である。これに加えて、自宅周辺の道路を掃除する京都市内の「門掃き（かどはき）」の慣習についても紹介した。清掃活動ボランティアには修学旅行生や地域の小学生も参加しており、視聴者に自分のことから取り組む姿勢が重要であることを伝える内容となっている。なお、本DVDも本学のホームページ(「授業のたね」)から視聴できる。

2.5 プログラムの開発

プログラム作成の依頼を受けた時期が2008年12月であり、雑巾とDVDの作成に半年は必要であることから、2009年6月から2010年1月までをプログラムの実施時期とした。また、初めての試みであることを考慮し、実施方法については各学校の実情に合わせた。従って、本プログラムは固定的なものではなく、これを参考として学校毎にアレンジした上で実施することとした。

プログラムの目標は、①身近な環境問題に関心をもつこと、②家庭と学校および地域のよりよい環境づくりや環境保全の必要性を理解すること、③家庭と学校および地域のよりよい環境づくりや環境保全に配慮した行動ができること、の3点とした。ここでは、清掃活動を環境問題に位置付けることによって、清掃活動が学校施設の整備美化に留まるものではないことを教職員および児童に伝えることを意図した。

プログラムは事前調査(作文・児童アンケート・教職員アンケート)⇒授業⇒清掃活動⇒事後アンケート(作文・児童アンケート・学校訪問調査)からなる。事前調査では実態を把握するとともに、清掃活動への意識付けを行う。授業では①掃除への関心を高め、②掃除方法を理解し、③正しい掃除を実践することの3点を目的とした。低中学年ではDVDとプリントを使用した授業を2時間(1時間に短縮してもよい)行い、BKZを配布して清掃を行う。実践後、事後アンケート調査を実施する。高学年では家庭科でBKZを製作し、完成後、製作アンケートを実施する。

2.6 学習指導案

以下に指導計画と学習指導案を示す。実施時間については各学校の実情に合わせ、総合的な学習の時間・学級活動・道徳・家庭科などを想定している。なお、2枚目のDVD「ビューティ

フル京都一でできることからはじめよう」については時間的な余裕があれば第4次のあとに、学級活動の時間などを利用して視聴することとした。

学校清掃活動学習指導案

1. 目標

掃除に関心をもち、掃除方法やゴミの分別方法を理解し、それらを実践することができる。

2. 指導計画（低・中学年は全2時間と掃除時間）（高学年は全4～5時間＋掃除時間）

第1次 掃除の仕方を点検しよう・・・・・・・・・・1時間

＜第2次 B K雑巾をつくろう・・・・・・・・・・2～3時間＞（5・6年生のみ）

第3次 ゴミの捨て方・掃除道具の使い方を知ろう・・・・・・・・1時間

第4次 B K雑巾を使って学校清掃活動で実践してみよう・・清掃時間

3. 本時の展開（展開2は次ページに掲載。）

①本時の展開 1

区分	学習活動と内容 (予想される児童・生徒の反応)	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	準備物・ 資料等
導入 5分	学校掃除について振り返る		
展開35 分	1. 本時の課題の理解 正しい掃除方法を学ぶ。掃除に関心を持つ	・掃除ビデオ「間違い探し」を見せる。 ・間違っているところを発表させる。 ・ワークシート「ピッカとピッケのおそうじガイド」を配布し正しい掃除を考えさせ、発表させる。 ・正しい掃除ビデオを見ながら確認する。 ・教室以外の掃除では使う用具や掃除方法も違うことをビデオで把握させる。	ビデオ ワー ク シ ー ト ビ デ オ ビ デ オ
まとめ 5分	・今日の学びをもう一度確認する。		

Ⅲ. 実施計画

3.1 実施内容と日程

本プログラムは京都市まちの美化推進事業団の委託事業であり、2009年度内に教材作成とプログラムの作成を行い協力校を選定し実施した。委託事業の内容を以下に示す。

(1) 実践型環境学習プログラム（指導計画・授業案）の作成

①小学校低中学年（1年～3年生）

②小学校中中学年（4年～6年生）

②本時の展開

区分	学習活動と内容 (予想される児童・生徒の反応)	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	準備物・ 資料等
導入 5 分	・ 前回の学習内容を確認する	・ 前回の学習内容である正しい掃除方法のポイントを黒板に示しながら確認する。	
展 開 20 分	1. 本時の課題の理解	・ 本時の課題を提示する。	B K 雑巾
	BK ぞうきんの使い方を考え実践につなげる		
	・ BK ぞうきんの色や形の理由を考える。	・ 「正しい掃除をマスターしたみんなに」と雑巾を配布。京都市まち美化推進事業団の紹介。 ・ BK ぞうきんの特徴について知らせる。 黒色：何度も使えるように。 干してもきれいなように。 マーク：ビッカとビッケが消えるまで、しっかり掃除をしよう。	ビデオ
	・ 掃除道具の使い方のビデオを見る。 ・ 配布した雑巾で絞ってみる。 ・ BK ぞうきんを使った掃除の方法と目標を考えカードに記入する。	・ 掃除道具の使い方のビデオを見せる。 ・ 配布した雑巾で絞り方を体験させる。	
	ゴミの分別・掃除用具の使い方を理解し、実践につなげる		
・ 現在の「家庭」と「学校」の分別方法を発表する。 ・ ゴミの分別についてのビデオを見る。	・ 現在の「家庭」と「学校」の分別方法を発表させる。 ・ ゴミの分別についてのビデオを見せる。 ・ 分別のポイントになるものをいくつか実際に見せ分別の指導をする。 ・ リサイクルの現状を紹介する（できれば）。	ビデオ （できれば） ペットボトル・缶・ビン・レジ袋 リサイクル商品	
まとめ 2 0 分	・ 掃除の感想文を書き、今日の授業を振り返る。	・ 掃除に関する感想文を下記のテーマに基づいて書かせる。	原稿用紙

【感想文テーマ】

- ・ 昨日の自分の掃除の仕方と様子について説明してください。（１００字～２００字）
- ・ 勉強したことをもとに、これからどのように掃除をしようと思いますか。（１００字から２００字）

(2) プログラムに使用する教材の作成

①清掃活動用雑巾（「BKZ」製品版と「BKZ」キット版の作成，2種）

②視覚教材の作成（DVD教材5分A，Bの作成，2種）

内容：A 室内環境・屋外環境の掃除の方法，ゴミの分別方法（活動編）

B 京都の伝統文化や町並みの保全とまち美化活動の重要性（理解編）

(3) 2009年11月1日「世界の京都・まちの美化市民総行動」におけるプレゼンテーション

(4) プログラムの実施とその検証

①本学附属学校および京都市内協力校への依頼と実施

②アンケート調査の実施と分析

先述のように，2009年6月までに上記（1）（2）を完成させた。（3）では京都市役所前で3000人を超える市民の前で，プロジェクトに参加した大学生と小学生がBKZや小学校での実践に関するプレゼンテーションを行う。（4）では2009年2月に京都市教育委員会の便きょう会と家庭科研究会にプロジェクトへの協力を要請し，5月には実践校が決定，6月から2010年1月を実施期間とした。その後，アンケート調査や訪問調査を行うこととした。

3.2 協力校

6月からの協力校は表1に示した京都市内の小学校11校，児童数は3964名（2009年6月現在）である⁵⁾。この他，2009年11月には本学附属特別支援学校（児童生徒数約80名）もBKZの使用という形で参加し12校となった。

六条院小学校は京都市家庭科研究会からの協力校であり，他の京都市立小学校は便きょう会からの協力校である。本学では附属桃山小学校に協力を依頼した。先述のように，11校は清掃活動に対する意識は比較的高い学校である。但し，学校の規模，教員構成，地域性などにより若干の差がある。本プログラムはこうした状況を踏まえ，各学校の教育活動に支障の出ない無理のない範囲で実施することとなった。

	学校名	児童数 合計
1	京都市立小野小学校	602
2	京都市立静原小学校	19
3	京都市立宇多野小学校	442
4	京都市立嵯峨小学校	527
5	京都市立修学院第二小学校	326
6	京都市立新林小学校	473
7	京都市立岩倉北小学校	309
8	京都市立下鳥羽小学校	572
9	京都市立陶化小学校	141
10	京都市立六条院小学校	122
11	京都教育大附属桃山小学校	431
11校	合 計	3964



図9



図10

3.3 実施経過

各校には 6 月中旬までに教材とアンケート一式を必要数送付した。各校では 2009 年 12 月までに BKZ の配布を完了し、児童が学校や家庭で BKZ を使用して清掃活動を行っている。事前事後アンケートと清掃活動に関する作文については総ての学校で実施することは出来なかった。現在、アンケートの回収と分析を行っており、それらの結果については第 2 報で報告する予定である。

2009 年 11 月 1 日の「世界の京都・まちの美化市民総行動」は天候にも恵まれ、京都市役所前に 3000 人を超える市民が集まった。プロジェクトに参加した本学学生 4 名と小学生 4 名(静原小学校 5 年生 1 名・小野小学校 6 年生 3 名)による 10 分間のプレゼンテーションを実施した。大学生がプロジェクトの概要を説明し、小学生が実際に BKZ の製作や活用した感想と日頃の清掃活動への取り組みを発表した(図 9・図 10)。大学学生の発表はビッカとビッケに扮したわかりやすいプレゼンテーションであり、小学生の発表は非常に意欲的で好評を博した。

IV. おわりに

本報告では、現在、取り組んでいる BKZ プロジェクトの概要と実施経過を述べた。プログラムはまだ進行中であり、その検証は課題として残されているものの、ほぼ 1 年間という短期間で教材とプログラムを開発し、4000 名規模での実践を実現した点は特筆すべきことであるとする。これを可能にしたのは京都市教育委員会と本学附属桃山小学校の全面的な協力であった。

とくに、小野小学校、静原小学校、宇多野小学校、六条院小学校、附属桃山小学校には多くの協力をいただいた。2009 年 7 月 29 日に小野小学校で行われた便きょう会の全国実践交流会では本プロジェクトの紹介時間をいただき、静原小学校と小野小学校は小学生によるプレゼンテーションの実現に尽力下さった。当日は新型インフルエンザの流行の時期と重なり、児童の参加が難しい中で両校の学校長と保護者が児童を引率下さり、無事発表を終えることができた。また、宇多野小学校は筆者らの学校訪問にあわせて授業実践の日程を調整下さり、六条院小学校と附属桃山小学校にはプログラムの計画段階から様々なアドバイスをいただいた。そして、附属桃山小学校には DVD の撮影協力など全面的な支援を受けた。

学校訪問調査では多忙な中、学校長を対象としたインタビュー調査に協力いただき、清掃活動や学校経営に関する多くの先進的な取り組みを収集することができた。これらの内容を精査し、応用可能な事例として紹介していくことも今後の重要な課題である。

謝辞

辻井勝先生はじめ便きょう会の諸先生方と家庭科研究会の大槻範子先生と附属桃山小学校西井薫先生には大変お世話になりました。記して感謝申し上げます。

注

- 1) 井上えり子・藤田加代・松本歩子・垣内良友・大嶺武也, 2006年, 子どもたちの生活とトイレ環境, 京都教育大学教育実践研究紀要, 第6号, pp.135-144. 井上えり子・藤田加代・水島あかね・前田明日香, 2007年, 子どもたちの生活とトイレ環境2, 京都教育大学環境教育年報, 第15号, pp.11-22. 井上えり子, 2006年, 大学における清掃美化活動と教師教育, 日本教師教育学会年報, 第15号, pp.92-102. 井上えり子, 京都教育大学における利用者参加型学校トイレプロジェクト, 2008年3月, 京都教育大学紀要, 第112号, pp.1-14.
- 2) 井上えり子・榊原典子・藤田加代・大本久美子, 2008年, おたまじゃくしぞうきんプロジェクト1, 京都教育大学環境教育研究年報, 第16号, pp.7-21. 井上えり子・榊原典子・藤田加代, 2009年, おたまじゃくしぞうきんプロジェクト2, 京都教育大学環境教育研究年報, 第17号, pp.65-73. 井上えり子・榊原典子・沼田ひろみ・岡本芳子, 2009年, おたまじゃくしぞうきんプロジェクト3, 京都教育大学環境教育研究年報, 第17号, pp.75-83. 井上えり子・榊原典子・大本久美子, 2009年, おたまじゃくしぞうきんプロジェクト4, 京都教育大学環境教育研究年報, 第17号, pp.85-95.
- 3) 本プロジェクトの主なメンバーは井上えり子・松本歩子・鯨島永・田野菜奈美・浅野三奈・北川奈穂・木下勇輝・水口祐介である。この他, 久保沙織・岡田はるか・谷津麻子・廣道茂恵子・藤永千咲・広道真弓・島津明里・畑夏美・松實輝彦が協力した。
- 4) 井上えり子・榊原典子・藤田加代, 2009年, おたまじゃくしぞうきんプロジェクト2, 京都教育大学環境教育研究年報, 第17号, pp.71-73.
- 5) その後京都市立陶化小学校は諸事情により平成22年度の実施となった。

